

札幌市議団ニュース

2011年11月7日 No.51

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

第3回定例議会 決算特別委員会・論戦特集 ⑨

<坂本議員>

札幌中心部における駐輪場の整備を早急に

坂本議員は「地下鉄やJR駅周辺では、自転車利用の増加とともに放置自転車が深刻な状況（放置台数 9895台）になっている。駐輪場の確保なしには問題は解決しないと思うがどうか、現状に対する認識と整備方針を伺う」と質問。

木村建設局総務部長は「総合的な駐輪対策に早期に取り組む計画を5月に策定。適地の確保に苦慮していることから、今後は既存用地の活用～既存駐車場の転用や未利用地の活用など様々な手法で施設容量の確保に努める」と答弁しました。

坂本議員はつぎに「この8月、大通り公園に駐輪場が整備された。まだまだ足りない。今後の大通り地区、都心部での駐車場整備の見通しは、いかがか」と質しました。

木村建設局総務部長は「利用率は111%(178/159台)となっている。他の箇所への拡大を検討していく」と答弁しました。

坂本議員はさらに「都市部の建物に対する駐輪場附置義務を、小売業や銀行、遊戯施設に限定せず、オフィスビルにも拡大すべきと思うが、どうか」と質問。

木村建設局総務部長は「附置義務条例の見直しを考えている。オフィス系への拡大も検討する」と答弁しました。(10/25)

<宮川議員> 北1西1街区の市民交流複合施設

新たな文化施設・ホールは1階に

北1西1街区の市民交流複合施設は、再開発による巨大ビルになることから、建設費捻出のため<保留床のつくり過ぎ→売れ残り→その尻ぬぐいを市が>という失敗パターンにならないように、慎重に検討すべきと我党はこれまでも指摘してきました。

宮川議員は、改めてこの問題と取り上げ「日本経済と本市経済に明るい要素が見えないなか、保留床（オフィス分譲フロア）は減らすべきだ。全体規模も縮小すべきと思うが、どうか」と質しました。

八柳都心まりづくり推進室長「準備組合では縮小する方向で検討している。全体も、必要な機能確保のうえで縮小を検討する」と答弁しました。

⇒ 裏面につづく

宮川議員は次に、ホールの問題を取り上げ「2300 人収容と聞いているが、コンサートや演劇など来場者は、終了時刻にいっせいに退出する。滞ることなく速やかに外に出て、各方面にという流れを、どう作るかが課題。何階を想定して、どう流れをつくるおつもりか」と質問。「ホールは下層棟の上層部に配置する」(**八柳都心まりづくり推進室長**)の答弁に**宮川議員**は「6階の想定だと思われる。2300 人ものが一気に動き出すホールは1階(または2階)に設置すべきだ。ホールはできてしまったら、やっぱりまずかったといっても移動できない、失敗しても取り返しがつかない。2300 人のホールから1階へ人を運ぶエレベーターは何機設置するおつもりか」と質問。**八柳都心まりづくり推進室長**は「エレベーターよりも輸送能力の高いエスカレーターを中心に考えている」と答弁しました。

宮川議員はさらに「2階ならエスカレーターも威力を発揮するが、6階などの高層にある場合は、直行式の長いエスカレーターでもなければ…しかし事故の危険が高い。エレベーターなら10機は必要だし、火災・地震が起きたらどうなるのか? 問題が多い。なぜ1階に設置できないのか、1階には何が入るのか」と迫りました。

八柳都心まりづくり推進室長は「1階については、NHKが放送局を想定している」と答弁。

宮川議員は最後に「『1階が欲しい』というNHKにはNHKの事情があつてのこと。しかし、市は市で“ホールは1階がいい、せめて2階だ”と交渉はできないのか、市民まちづくり局の交渉力が問われている問題だ。いま一度いいホールのあり方を考え直すべき時。2300 人ものが一度に出入りすること考えれば、6階などの高層階につくってしまったら、後から移動することなどできない、いまが大事なとき。再開発ビルの全体像を決まったものとしなくて、1～2階でのホールを改めて検討すべき」と強く求めました。(10/27)